

# Addition and Correction to the Marsh Flora of the Sera Plateau, Hiroshima Prefecture, Western Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00055946">https://doi.org/10.24517/00055946</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



いままで良い参考書がなかったこともあり、簡単に手に入れる事ができないものであった。きめ細かい各系統作成法の評価は、着実にこの分野が進歩していることを納得させてくれる。学問の性質上、数式が多く、熟読はとても疲れるが、正確なこの分野の知識を得るにはいい本ではないかと思う。(綿野泰行)

○ 広島県世羅台地の湿原植物についての追加と訂正 (下田路子\*・実光紀之\*\*・吉野由紀夫\*) Michiko SHIMODA\*, Noriyuki SANEMITSU\*\* and Yukio YOSHINO\*: Addition and Correction to the Marsh Flora of the Sera Plateau, Hiroshima Prefecture, Western Japan

著者らは広島県世羅台地の湿原に生育する稀少植物数種の分布と生育状況について報告した(下田ほか, 1989)が、その後の調査により以下のような追加・訂正すべき点が生じたので報告する。

### 1. ヤチシャジン

著者らが報告した世羅郡世羅町にあるヤチシャジン *Adenophora palustris* KOMAR.の生育地は牧場の建設予定地内にあり、この生育地を保存することは残念ながら不可能である。しかし著者の一人実光は1988年9月に、上記の生育地の西方約1kmの所にある、山間の小さな湿地にも本種が生育しているのを確認した。

標高480mのこの湿地は、ミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* LINN. var. *microphylla* HONDAが生育する湿原の上方の、アカマツ林に囲まれた谷にある。ここでは高さ約5mのネズ、アカマツや、約1.5mのイヌツゲ、ウメモドキ、アセビ、ミヤコイバラなどの木本類が優占している。また草本層の主な種はシシガシラ、ヌマガヤ、マアザミ、ヤマドリゼンマイ、ススキなどで、ヤチシャジンもこれらの種にまじってまばらに生育していた。この湿地も牧場の建設予定地に近いが、今のところ開発の予定はない。昨年(1989年)実光と中島秀也氏が、開発が予定されている湿原のヤチシャジンを数株、この谷に移植してみたところ、現在まで生育状態は良好である。そこで湿原が破壊される前に、残りの株も移植する計画である。なお、中国地方におけるヤチシャジンの分布に関する文献で前報にもれていたものに、北村(1936)と田代(1973)の報告がある。

### 2. コアナミズゴケ

前報で、コアナミズゴケ *Sphagnum microporum* WARNST. ex CARD.は世羅郡甲山町の湿原だけに見られたとのべた。しかし1989年8月の調査で、ミカワシオガマ、ミコシギク、ヤチシャジンが生育する世羅町の湿原にも、過湿な立地にコアナミズゴケが生育していることに気づいた。また関太郎博士にも現地でコアナミズゴケと確認していただいた。著者の一人下田は1988年11月に、ミズゴケ類の分類の専門家である鈴木兵二博士が、世羅町の西隣の賀茂郡大和町津久の山間に散在する湿原(標高約450m)を調査されるのに同行した。ここでもコアナミズゴケが、過湿地や水中に多量に生育していた。

SUZUKI(1972)は、ミズゴケ類の種の組み合わせにより日本の湿原を分類し、この中で「オオミズゴケ-コアナミズゴケの組み合わせ」(*Palustre-microporum* combination)を持つ湿原のタイプを報告している。上記の世羅台地の湿原では、周辺部にオオミズゴケ *Sphagnum palustre* LINN.が、また過湿地にコアナミズゴケが生育しているので、これらの湿原は上記のタイプに属するものと見なすことができる。

### 3. ノウルシとナツトウダイ

前報で、2個所の湿原に生育したトウダイグサ科の植物を、湿地生であることからノウルシ *Euphorbia adenochlora* MORREN et DECNE.としていたが、1989年5月に、中島秀也氏に花をつけた標本を採集していただき、関太郎博士に同定願ったところ、これはナツトウダイ *E. sieboldiana* MORR. et DECNE.であった。よって前報のノウルシ(下田ほか, 1989; p.10, 右上から2行目; p.11, 左最下行)をナツトウダイと訂正する。

多くの貴重な助言をいただいた鈴木兵二博士・関太郎博士、野外調査にご協力いただいた中島秀也氏に厚くお礼申し上げたい。

### 引用文献

北村四郎. 1936. 邦産ツリガネニンジンの数種に就いて. 植物分類地理 5: 204-210.

下田路子・実光紀之・吉野由紀夫. 1989. 分布上興味深い広島県世羅台地の湿原植物—ミカワシオガマの新産地など—. 植物地理・分類研究 37: 9-14.

SUZUKI, H. 1972. Distribution of *Sphagnum* species in Japan and an attempt to classify the moors basing on their combination. Journ. Hattori Bot. Lab. 35: 3-24.

田代晃二(編). 1973. 田代善太郎日記, 昭和篇. 880 pp. 創元社, 大阪.

(\*〒730 広島市中区東千田町1-1-89 広島大学理学部植物学教室 Botanical Institute, Faculty of Science, Hiroshima University, Higashi-senda, Naka-ku, Hiroshima 730, Japan; \*\*〒729-33 広島県世羅郡甲山町青近445 Aochika 445 Kōzanchō, Sera-gun, Hiroshima-ken 729-33, Japan)